魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年7月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信
※2　この動向は、7月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

「魅力発信！えひめ農業ＮＯＷ（７月分）」

東予地方局　地域農業育成室

■新規就農者と農業プロが交流会

○地域農業育成室は７月 29 日、新規就農者を対象に管内の農業指導士や認定農業者から栽培技術を学ぶ現地研修と情報交換会を開催した。当日は新規就農者６人、農業指導士等６人他関係機関が参加。

○現地研修会では、西条市内のベテラン農家３人が、各ほ場（キウイフルーツ、さといも、葉わさび）にて経営概要や栽培のコツを説明し、西条第二庁舎での情報交換会では、新規就農者からの質問にベテラン農家が回答した。

○参加した新規就農者からは、「専門的な技術が必要であることが分かった」、農業指導士等からは、「担い手の技術向上に協力するので、いつでも相談に来てほしい」との声もあり、また、両者からは、「今後もこのような活動を継続してほしい」との意見がでた。

農業プロのほ場を見学

新規就農者の質問に答える農業プロ

※農業プロ：当室では、平成 30 年度からの普及ビジョン「農業プロによる担い手の育成」に基づき、地域のリーダーである農業指導士等を農業プロとして位置づけ、青年農業者等への技術や経営面等の支援をすることで地域内での担い手を育成。現在、東予東部の農業指導士及び認定農業者地区理事合わせて 29 人を農業プロとして、アドバイザーリストを作成し、関係機関に周知している。

■「ミニ野菜」で地産地消を展開

○地域農業育成室は、野菜を中心とした特色ある少量多品目栽培で新居浜市の地産地消都市近郊型農業を展開するため、７月 15 日、ＪＡ新居浜市経済センターで、「ミニ野菜」の栽培に係る講習会を開催した。会には、ＪＡ新居浜市産直市であるあかがね市出荷者 28 人が出席。

○「ミニ野菜」は、通常の野菜と比較しサイズだけが小さいものを指し、産直市で一般野菜との差別化を図る。

○当日は、県農林水産研究所が発行した「ミニ野菜を含めた軽量野菜栽培マニュアル」を活用しながらミニ野菜の種類や特徴、作型等を説明。出席者は高い関心をもって聞き入っていた。

ミニ野菜講習会

■西条市の「ひめの凜」、県全体の 47%を占める

○県育成品種「ひめの凜」は、５月 27 日から田植が始まり、ＪＡ周桑とＪＡ西条で、栽培者 70 名、栽培面積 57.8ha の作付けがあり、県全体の作付面積の約 47%を占めている。

○県は６月 24 日、「ひめの凜」中干し講習会を西条市で開催し、栽培認定者は中干しの重要性を再認識していた。

○７月上旬からの長雨と日照不足で軟弱徒長気味の生育となっているが、特に大きな問題は発生していない。

○地域農業育成室では、７月は適期・適度な中干しを徹底、８月は生育診断に基づく穂肥の適期適量施肥を重点的に指導し、プレミアムクオリティの生産に向けて支援していく。

水田現地での中干し講習会

中干し期の「ひめの凜」

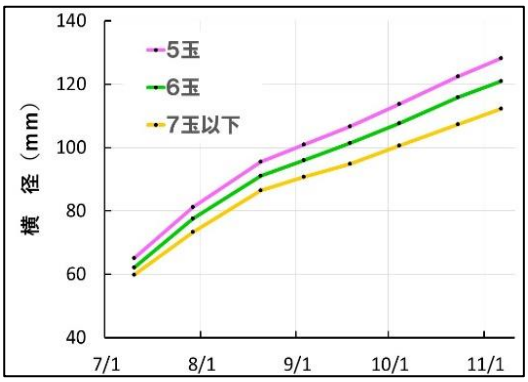
■かき「太天」600ｇの大玉生産に向けた摘果を実施

○地域農業育成室は７月８日、かきの「太天」生産者に市場で有利販売できるサイズ（約600ｇ/果（６玉入り/箱））中心の生産となるよう摘果講習会を実施した。

○講習会では、２か年取組んだ局予算事業のデータから作成した各月の肥大から収穫時の大きさが予測できる肥大曲線を提示し、まずは正品にならない奇形果を摘果し、樹勢と肥大をみながら７月下旬から８月末に葉果比20～25に仕上げるよう指導した。ただし、本年は生理落果が多く、着果が少ない園地は秋季にヘタスキ果の多発が懸念されることから、奇形果がみられても摘果を控えるか遅らせるよう指導した。

○今後、重要害虫であるカメムシ、ハマキムシ類の発生予察を行い、その状況と対策についてＪＡ、生産者と連携し、正品率の高い果実生産に努める。

摘果講習会の様子



目標サイズと肥大曲線

■コロナに勝つ！西条青年農業者が、園児や高校生らに花育体験指導

○地域農業育成室による指導のもと、西条地区青年農業者連絡協議会花き実践班は高校生や園児に特産のバラを使う花育活動を行った。

○本活動は同実践班の青年農業者が講師役となって実施。７月 16 日は富士保育園児 49 人を対象に、バラと多肉植物を使ったアレンジメント作製の実習を行い、７月 22 日は丹原高校園芸科学科２年生 38 人を対象に、アレンジメントの作製とバラや多肉植物の施設見学を行った。

○今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、花きの価格低迷が生産者の農業経営を圧迫していることから、「コロナウイルスに勝つ！花の消費拡大を目指して」のテーマのもと、「将来の花生産の担い手確保及び消費拡大につなげたい」と青年農業者活動として実施。

○園児らは、「花がいっぱいで嬉しい」「楽しい」と大喜びで、作製したアレンジメントはそれぞれの家庭に持って帰った。高校生からは、「花の栽培や経営がわかり就農のイメージが膨らんだ」「将来の職業を選択する際の参考になった」との意見が出た。

○８月には市内保育園等の希望する教職員を対象に、「花育セット」を使った講習会を計画しており、教職員から園児への花育活動が展開されることを期待している。

多肉植物ハウスを見学

バラのアレンジメント体験

※花育セット：花のアレンジメントを即楽しめるよう花と容器とオアシスをセットにしたものでバラと多肉植物の２種類を用意した。今後、花育セットとしてどこへでも販売、発送できるよう 500 円程度の商品として計画中。

東予地方局地域農業育成室　四国中央農業指導班

■寺尾果樹園でマルシェ「ぷちぷちポンジー」開催！

○四国中央農業指導班は、さくらひめ四国中央会をはじめとする女性組織の活動支援を継続して行っている。

○例年、寺尾果樹園で加工部門を担当する寺尾つむぎ氏（同会会員）は県内各地で開催されるイベントに参加し、スムージーやジュース等の実演販売によりＰＲ活動を行ってきた。しかし、今年度コロナ禍によって大規模なイベントの自粛により、４月以降活動ができない状況だった。

○そこで、当班は７月４～５日、同氏が寺尾果樹園にて開催した小規模マルシェ「ぷちぷちポンジー」の事前準備・運営を支援した。同マルシェには感染症拡大防止に配慮して寺尾果樹園と面識がある５店舗のみが出店し、当日はＳＮＳ等で開催を知った顧客で賑わった。

○当班では、他女性組織会員に対して今活動の広報・普及を行い、コロナ禍解消後の段階的な活動再開を支援していく。

会場の様子

寺尾果樹園のスムージー

■ＪＡと共同で一日営農相談の実施

○四国中央農業指導班は管内５会場にて、ＪＡと合同で一日営農相談を実施し、さといも、やまのいも、水稲及び果樹の指導を行った。

○のべ82名の農家が参加し、今後の管理、施肥、防除について説明を行った。

○特にさといも疫病対策では、新規登録薬剤２剤が加わったことから、初発後の体系防除を重点的に指導し、高い関心を持たれた。今後もＪＡと協力し、特産品の生産指導に努めていく。

一日営農相談の様子

■地域一体でさといも疫病防除対策（藤原モデル）を推進

○四国中央農業指導班は、四国中央市土居町藤原地区において、さといも疫病対策を推進。
○例年、疫病が初発生する同地区で重点地域（９戸・4.9ha・21 ほ場）を設定し（藤原モデル）、本年度の疫病初発（７月７日）確認後、７月 10～12 日にかけて、ＪＡうま及び商系業者と連携し、地域一体で本年適用拡大された疫病治療薬剤の散布を指導。
○７月第４半旬時点で、同地区での疫病発生は１ほ場にとどまっており、大幅な拡散が防止できたことから、今後も連続降雨に注意し、防除体系モデルの推進を徹底する。

地域一体防除の実施

■やまじ丸県庁食堂に登場！！

○四国中央農業指導班は、昨年「愛」あるブランド認定を受けたやまじ丸の認知度向上や新たな販路開拓を目的に、県庁３食堂での期間限定メニューの取扱いを推進した。
○当班は新メニュー提供初日の７月 13 日、ＪＡうまや生産者、食堂関係者等とともに、中村知事への試食会に参加し、産品の魅力発信に努めた。
○職員や来庁者からの評判も良く、食堂での取扱いも期間延長となり産品をたくさんの方に食べてもらえる機会となった。
○今後もやまじ丸の魅力を発信し、認知度向上に努め産地を盛り上げていく。

試食会メニュー

試食会の様子

東予地方局　産地戦略推進室

■さくらひめの苗作りがスタート

○新居浜市の別子木材センターでは、標高700mの冷涼な気候条件を利用し、県下生産者向けのさくらひめの苗生産を行っており、７月１日から９月定植苗の播種作業が始まった。１枚当たり200穴のセルトレイに１粒ずつ種をまき、夜間冷房施設で育苗し、約60日後に栽培農家に届けられる。

○産地戦略推進室では、事前に育苗管理の手順を担当者と確認するとともに、10月下旬まで続く育苗作業について、育苗ステージや気象条件の変化に合わせた水・肥料・温度管理により良質苗生産が行えるよう支援していく。

播種作業

■東予地域の花木産地づくりに知恵を絞る

○東予地方局及び今治支局産地戦略推進室は７月２日、西条第二庁舎で「東予地域花木生産対策会議」を開催。県、花き研究指導室、市町、農協等、24人が出席した。

○昨年度から取り組んでいる局予算「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」の産地化推進体制づくりのため、主力品種として推進する「ピットスポラム」、「ビブルナム・ティナス」、「メラレウカ」の紹介、令和元年度活動実績、令和２年度活動計画について検討したあと、周桑農協管内の花木ほ場を見学した。

○今後は今治市から四国中央市の関係機関が一体となって、優良苗供給体制の確立や栽培技術の高度化支援、実需者の要望をふまえたマーケットインによる生産出荷と販促活動に取り組む。

花木３品目の紹介

周桑農協管内の花木ほ場

東予地方局今治支局　地域農業育成室

■今治地域農業の魅力発信と将来の担い手確保に向けて

○地域農業育成室及び産地戦略推進室では、新たな取組として、県立今治南高等学校、今治ＣＡＴＶ、ＪＡと両室が連携した今治地域農業の魅力発信番組を企画した。
○同番組は両室の技術指導のもと、生徒による実習・体験と生産者等へのインタビューを中心に構成し、年３回・各 30 分のＣＡＴＶ地域情報番組（複数回の再放送あり）とする予定。
○両室では、この企画を契機に生徒の就農意識の向上を図り、将来の担い手確保につなげることとしている。

材日	テーマ	取材場所
9 月 16 日	醸造用ぶどう栽培 ・県内初の醸造用ぶどう産地の取り組み ・収穫体験、醸造所見学、インタビュー等	今治市大三島 （株）大三島みんなのワイナリー
11 月	里芋の省力栽培 ・管内で生産拡大を推進している里芋の最新動向 ・収穫体験、省力化機械の説明、インタビュー等	高校の実習圃場 今治市内の先進農家
1 月	花木を利用したフラワーアレンジメント ・全国有数の花木産地へ飛躍している花木に着目 ・収穫体験、アレンジメント、インタビュー等	高校の実習教室 今治市内の先進農家

関係機関による番組内容打合せ

■農福連携「媛かぐや」苗定植

○今治管内では、消費者に人気が有る、さといも「媛かぐや」（愛媛県が開発した親芋用品種）を栽培しているが、生産者の減少が続いている。
○地域農業育成室では、新規栽培者確保と農福連携を実施するため、今治市の就労継続支援Ｂ型事業所「イマバリ寺ス」にて、栽培実証を行った。
○同事業所は７月２日、地域農業育成室の指導のもと、「媛かぐや」のセル苗 200 本を施設利用者等 10 人で定植した。
○生産された「媛かぐや」は、さいさいきて屋を通じて販売する予定である
○当室では、今後も障がい者の個性を活かせる農作物の栽培を指導、支援していく。

「媛かぐや」定植作業

定植された「媛かぐや」

■今治産小麦の新たな需要創出を目指し、地産地消活動推進会議を開催

○地域農業育成室及び産地戦略推進室は、７月 20 日、今治支局において、製粉会社、卸売業者、地元の実需者、ＪＡ、市等の関係者 22 名が出席して「今治産小麦地産地消活動推進会議」を開催した。

○今治産小麦は近年の作付面積拡大等により供給量が増加し、学校給食用パンに加え地域食材として一般に利用を広げていくことが可能になった。

○会議では県から、学校給食用パン以外の需要創出に向けた今後の推進方向について提案し、出席者の共通認識の形成を図った。

○製粉会社からは、今治産小麦の認知度向上を図るイベント開催のアイディアが出されたほか、ＪＡから産直施設にパンを出荷している生産者に活用を勧める案や地元短期大学から学祭での試食イベントの案が出されるなど、地元産小麦を浸透させる方策について意見交換を行った。

○第２回推進会議を９月に開催。

当日展示された試作パン

推進会議の様子

■ニホンザルから、なし産地を守る

○今治市朝倉のなしほ場において、７月から野生動物による果実の食害が顕著となっていたことを受け、地域農業育成室は、被害を受けた農業者から状況を聞き取り、ほ場にセンサーカメラを設置。その結果、果実の食痕や撮影映像から、加害動物はニホンザルであることを特定した。

○なしの収穫期は８月下旬から 10 月までと長期に亘るため、当室は農業者に対し、複合柵の設置（既存のワイヤーメッシュ柵を活用し、その上部に追加で電気柵を設置）と追い払いを併せて実施するよう指導。また、市と連携して、煙火講習会（市主催、７月 16 日）への参加を促した。

○被害を受けた農業者は同会に参加後、猟友会と連携し、捕獲も進めることとなった。

○今後、当室は、センサーカメラにより出没及び被害状況を継続して観察し、複合柵の効果を検証する。

センサーカメラでサルを確認

複合柵の設置方法を指導

■かんきつマルドリ栽培の“マルチ巻上システム”を開発

○地域農業育成室は、昨年度より革新的技術開発・緊急展開事業を活用し、農研機構西日本農業研究センターと連携して、マルドリ栽培を推進してきた。

○マルドリ栽培の課題として従来「マルチが開閉出来ないため石灰や堆肥が撒けない」という課題があった。

○そこで、この課題を解決するため、当室では「マルチ巻上システム」を新たに開発した。

○このシステムの特徴は、既存の巻上資材に比べ、簡易で安価な資材であり取組みやすいことである。

○今後は、愛媛果試第 28 号等のマルドリ栽培に取り組む農家に新たな技術システムとして紹介し、マルドリ栽培による高品質ブランド果実生産を目指す。

マルチ巻上システム

■経営支援講座の実施（私なりのスマート農業を考える）

○地域農業育成室は７月 30 日、今治市大三島町の青年農業者のかんきつ園地にて経営支援講座を開催し、青年農業者５人、今治農業女子メンバー６人の 10 人が参加した。

○参加者の中には、地元の農家から引き継いだ園地を管理している受講者も多く、当室は果実を安定的に収穫できるよう剪定技術を指導した。参加者らは今後、各自の園地の樹の生長を観察し冬場に実践していく。

○また、作業の軽労働化と安全性確保のため、バッテリー式で女性も扱いやすい、運搬車、電動バサミ、チェンソー、草刈機、空調服について、農業機械メーカーによる説明及び実演後、希望者は実際に園地で体験した。参加者からは、「軽くて、楽に作業できる」「バッテリー式でもパワーがある」との感想が聞かれた。また、使用時間や費用等について意見交換がされた。

樹勢をみながら剪定場所を指導

チェンソー体験

東予地方局今治支局地域農業育成室　しまなみ農業指導班

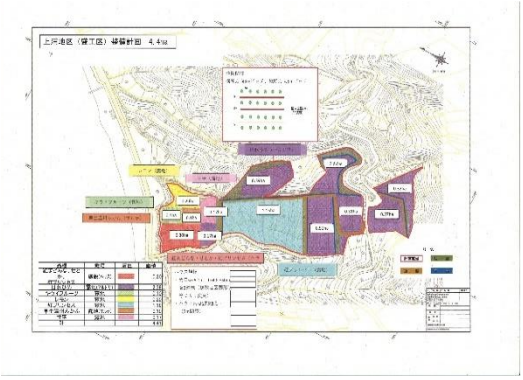
■上浦地区農地中間管理機構関連農地整備事業申請に係る営農計画の策定

○しまなみ農業指導班は6月30日と7月17日、今治市、ＪＡおちいまばり、県土地改良連合会、県農村整備課の担当者と協議し、上浦地区での西日本豪雨災害復旧農地整備後の営農計画を策定した。

○同地区では、西日本豪雨災害の被災農地の復旧にあたり「農地中間管理機構関連農地整備事業」を活用し6.8haの農地整備を計画している。

○営農計画では復旧後の農地について、ＪＡ新規就農研修圃場への活用や地域振興品目の「はれひめ」「レモン」「キウイフルーツ」「紅プリンセス」の植栽を選定し、マルドリ栽培による高品質果実生産と用水の効率利用を目指すこととした。

○今後は営農計画に沿った事業効果等、申請業務の助言指導を行う。



盛工区整備計画（図面）

■新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた取組み検討

○しまなみ農業指導班は、しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会が実施する教育旅行受入推進支援を行っている。

○同協議会は、7月15日に教育旅行を含む今後の活動等について協議するため、役員会を開催した。

○本年の教育旅行（11校）は新型コロナウイルスの影響により9月以降に延期されており、今後の実施についても不透明な状況であるが、当班では会員に対して、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するよう周知した。

○また、「しまなみ地域」への誘客促進のため、各事業等を活用したイベント（体験メニュー料金の半額助成など）を実施することを申し合わせた。

役員会の様子（7月15日）

東予地方局今治支局　産地戦略推進室

■甘長とうがらしの高品質安定生産に向けた実証試験を実施

○産地戦略推進室は甘長とうがらしの高品質安定生産を図るため、今治市玉川地区のほ場で既存の白色ネット（４㎜目）や赤赤ネットよりも防虫効果が優れるとされる赤黒ネットを活用した実証試験を行っている。

○本実証では、５月下旬に白色ネットから赤黒ネットへの張替えを実施。張替初期には、アザミウマ、アブラムシ等害虫の飛来があったものの、６月上旬の防除以降、７月下旬までの調査では害虫飛来がなく、被害も発生していない。

○同地区のハウス栽培は、後作に春菊が予定されており、甘長とうがらしは８月末で収穫を終了することから、実証試験も同時期まで１週間に１度、害虫の発生、被害状況を継続的に調査する。

○実証農家からは、「去年に比べ害虫の被害は少ない。赤黒ネットの効果として期待している」との意見があった。

赤黒ネット張替えの様子

赤黒色ネット張替え後のハウス内部

白色ネット（４㎜目）：縦と横の糸の組み合わせが白色のネット。
風よけ、ガの侵入防止等の目的で使用。

赤赤ネット（0.４㎜目）：縦横ともに赤い糸が張られているネット。
アザミウマの侵入率が低く、防虫用として広く使用されている。

赤黒ネット（0.４㎜目）：縦に赤、横に黒の糸が張られているネット。
赤赤ネットよりもアザミウマ、コナジラミの侵入率が低い。
試験用なので市販はされていない。

中予地方局　地域農業育成室

■農業女子のかんきつ摘果技術が向上！

○地域農業育成室は７月２日、女性農業者の技術力向上を図るため、中島農業女子会「姫たちばな」の若手女性農業者９人（新規就農者２人を含む）を対象としたかんきつの摘果講習会を開催。

○講習会では、甘平、愛媛果試第 28 号等の摘果方法について、普及指導員が実技を交えながら指導し、技術の向上を図った。参加者らは、「甘平の硬化症対策のホウ素剤を自然由来のもので代用出来ないか」「かん水はいつから行うのが良いのか」など、日頃から感じている疑問をぶつけていた。

○今後の活動について、参加者から、「県からの働きかけだけでなく、姫たちばなの会員で自主的に集まらないか」との意見があり、自主的な活動に向けて着実に前進している。

実際に摘果を実施

熱心に話を聞く様子

■農業女子がアシストスーツの効果を実感！

○地域農業育成室は７月 22 日、松山・伊予地区の若手女性農業者 11 人を対象に、アシストスーツ等の省力化機械や農作業安全をテーマとする「女性経営参画支援講座」を開催。

○講座では、各メーカーから市販されている各作業の労力軽減に応じたアシストスーツ（９着）を試着したほか、運搬車等の省力化機械の実演を行うなど、省力化技術の効果を体験した。

○参加者からは、「腰や肩への負担軽減を実感することができた」「夫と相談し購入を検討したい」等の意見があり、経営への積極的な導入を促すことができた。

研修会の様子

アシストスーツの試着

■松山市道後地区で新たに農業女子の輪が誕生！

○地域農業育成室は7月29日、女性農業者の積極的な経営参画を図るため、新たに松山市道後地区の女性農業者11人を対象としたかんきつ栽培講習会を開催した。

○これは、同地区では女性農業者のネットワークがなく、普及指導員が農家女性を個別指導した時に、「女性同士での交流機会が欲しい」との声があったことから、先ずは技術講習による交流の場を創出すべきとして開催したもの。

○講習会では、主力品種の伊予柑、不知火の摘果方法とかんきつの病害について指導したほか、管内の一次産業女子の活動について紹介し、技術力の向上や女性同士の交流を実施した。

○参加者からは、「直花果と有葉果というのはどう見分けるのか」「農薬の効果や草刈機の斜面での適切な使い方について知りたい」と積極的な質問があったほか、継続して技術向上の場を設けてほしいとの要望もあり、今後も技術向上と合わせて組織化を推進し、女性農業者同士の交流や経営参画を図る。

摘果について講習を受ける女性農業者

管内の一次産業女子の活動について周知

中予地方局地域農業育成室　伊予農業指導班

■集落営農組織におけるさといもの販路拡大を目指して

○伊予農業指導班は７月 14 日、集落営農組織の（株）まさき Rookies とともに、（株）藤田青果（四国中央市）を訪問し、さといもの出荷、販売について協議した。

○伊予地区では集落営農組織の経営安定のため、さといも栽培を推進しており、中でも（株）まさき Rookies は面積拡大に伴い新たな販路の開拓を求めていた。

○（株）藤田青果では本県産さといもを高品質・高評価で販売できるよう、最新の選別機などを導入しており、中予からも受け入れが可能とのことであったため、（株）まさき Rookies では今年度から出荷を開始する計画とした。

選果場視察の様子

○当班では、今後も収量向上に繋がる栽培指導を継続していくとともに、収穫や出荷に係る調整なども引き続きサポートし、高品質・高価格で取引され集落営農の経営安定化を支援する。

■「中山栗」反収 200 kgを目指して

○伊予農業指導班は７月２日、局予算「中山栗産地力向上促進事業」にかかる栽培指導講習会を開催し、反収 200 kgを目指すモデル園主と栗生産者（12 人）を対象に、今年度の生育状況の確認と今後の栽培管理について指導した。

○今年の栗の生育状況は、着毬数が多く順調であるが、今後、梅雨末期の降雨量による防除時期の見極めに注意することと、梅雨明け後に過度な乾燥で生理落果が発生する可能性があるため、かん水等で対応することを徹底させた。

○当班では、今年度から、モデル園主に加えて栗生産者や新規栗栽培者も栽培指導講習会の対象とし、病害虫や栽培管理に関する合同勉強会の開催により、栽培スキルの向上を図るとともに、栗栽培の先輩であるモデル園主との交流を深めることとしている。

中予地方局地域農業育成室　久万高原農業指導班

■直販所出荷者の有機栽培を支援

○久万高原農業指導班は７月 14～17 日にかけて、管内３か所で有機農業講座を開催し、道の駅（天空の郷さんさん、みかわ）出荷者等 33 人が参加した。

○当班から、土づくりのポイントと久万高原町で見られる病害虫対策、技術普及実証ほにおける有機栽培のポイントを指導したほか、種苗会社からは天候ストレスへの対処方法を説明した。

○参加者からは、農薬を使わない防除や管理方法、堆肥の資材について等の質問があるなど関心は高く、当班では今後も有機栽培による安全・安心な農作物の出荷を支援する。

熱心に受講する参加者

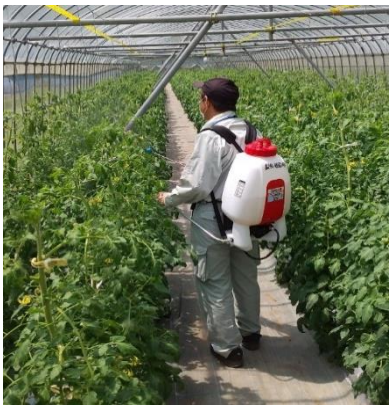
■トマト高品質に向けた新たな防除方法の実証を開始

○久万高原農業指導班は６月 29 日、トマトの品質低下の要因となっている「ゴーストスポット」（灰色かび病）対策として、今年度新たに導入した微生物殺菌剤「インプレッションクリア」の効果的な防除計画づくりのため、現地実証ほを２か所設置した。

○実証ほでは、薬剤の効果を確認するため試験区と慣行区を設け、時期ごとに発生状況を追跡調査し、有効であれば防除資材として次年度の防除指針に取り入れる予定である。

ゴーストスポット：灰色かび病が果実に発生した後に治癒した跡のことで、最近発生が多く品質低下の大きな要因

インプレッションクリア：病原性のない細菌が有効成分で、植物体表面上での灰色かび病の病原菌の増殖を抑制



トマトに微生物農薬を散布

中予地方局　産地戦略推進室

■今年度も「東温パクチー」の産地化に向けて始動

パクチーの加工品開発等を関係者で協議

○産地戦略推進室は７月２日、県産業技術研究所において、局予算「東温パクチー産地づくり事業」第１回戦略会議を開催。

○会議には、生産者、東温市、ＪＡえひめ中央、県食品産業技術センター、マーケティングプランナーなど14人が出席し、昨年度の事業実績やパクチーの出荷･販売状況等を踏まえた今年度の事業計画について協議。

○この結果、今年度は ①周年安定生産技術の実証と管内の標高差を利用した「産地内リレー出荷」の推進、②鮮度の低下しやすい夏場の鮮度保持対策とパクチーの色や風味を生かした加工技術の開発、③飲食店向けの業務需要や家庭消費の拡大に向けた効果的なＰＲ等に取り組むこととし、関係者が一体となって「東温パクチー」の産地化を推進する。

■「さくらひめ」の生産計画について生産者と関係者が協議

「さくらひめ」の生産計画について

○産地戦略推進室は７月 27 日、「さくらひめ生産出荷会議」をＪＡえひめ中央本所で開催し、生産者やＪＡ、農産園芸課など関係者 13 人が出席。

○会議では、県から県内及び中予管内の生産状況や前年度の栽培実績、今年度の作付計画と栽培管理のポイント等を説明。ＪＡからは販売情勢や定植前後の管理について説明があり、２番花の採花を早める栽培方法や春先以降の切り前等について、生産者からの質問等をもとに意見交換を行った。

○今後、出荷規格の徹底を図るため、採花が始まる 12 月及び４月に出荷規格目合わせ会を行うこととしており、当室では生産者及び関係者と連携して、高品質な切り花産地振興に取り組む。

■「甘平」の高品質安定生産に向けた調査を本格化

「甘平」の調査ほの摘果作業を実施

○産地戦略推進室では、県育成品種「甘平」の連年安定生産に向け、管内の農家園地に実証ほを設置し、有望技術の実証と調査を行っている。

○６月 24～29 日には、隔年結果対策に取り組んでいる施設栽培の４園地で「大枝別交互結実法」の処理を実施。樹全体を半分に分け、片側の果実を全摘果した。また、６月 24 日～７月 16 日には、松山市興居島ほか６カ所の裂果対策の調査園で、調査樹の着果条件を揃えるための粗摘果を実施した。

○「甘平」は、８月以降の気象条件が裂果や果実品質に大きく影響するとされていることから、当室では、今後、果実特性や土壌水分の推移等について本格的な調査を実施する。

南予地方局　地域農業育成室

■「第１回紅プリンセス栽培研究会」の開催

現地研修の様子

○地域農業育成室は７月 21 日、豪雨災害からの復興のシンボルとして紅プリンセスの産地化をめざす「第１回紅プリンセス栽培研究会」をみかん研究所において開催し、宇和島市吉田地域の若手生産者 15 人が参加。

○研究会は、局予算「紅プリンセス産地化促進事業」の一環で開催し、当室及びみかん研究所の担当者から、かんきつの栽培管理や紅プリンセスの品種特性等について説明の後、みかん研究所のほ場で、紅プリンセスの生育状況について確認した。

○参加者からは、「高品質の果実生産が期待できることから、ぜひ経営に取り入れたい」「果実がたくさん着生することから、摘果作業に注意が必要と感じた」等の意見が挙がった。

○当室は、紅プリンセスの産地化に向け、今後も栽培研究会を定期的に開催（年５回程度）するほか、若手が中心となり中晩柑の産地化に取り組んでいる先進地調査やセミナー等を実施する。

■加工用果物の生産計画等について情報共有

源吉兆庵ﾌｧｸﾄﾘｰﾌﾞﾗﾝﾄﾞ促進協議会

○地域農業育成室は７月７日、南予地方局において、関係市町・ＪＡえひめ南、(株)源吉兆庵で構成する「源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」を開催し、びわ･ももの出荷状況や、栗･かきの生産見込みについて情報交換した。

○生産量は樹の生長に伴い、４品目とも昨年より増加する見込みで、引き続き加工に適した品質の果実を安定供給することを確認した。

○当室は、次世代に向けた加工用果物産地づくりを推進するため、局予算「高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業」を活用し、農業法人等への栽培の働きかけや、低コスト･軽労働化技術の実証等にも取り組む。

■農作業安全講習会の開催について

○地域農業育成室は７月 21 日、農作業安全や農作業時の労働負担軽減、これから注意が必要な熱中症を防止するため、三間町農村ふれあい交流館及び現地（築山池周辺の圃場）で「農作業安全講習会」を開催し、宇和島市の若い女性農業者、女性認定農業者、生活研究協議会、集落営農組織等７組織 52 人が参加した。

ラジコンロボと電動草刈機の実演

○当日は、農機具メーカーから農作業安全についての説明を行った後、アシストスーツ・空調服等４種類の装着体験のほか、米袋やキャリーを運ぶ際の使用感について調査を行った。また、生活研究協議会が研究した熱中症予防飲み物の紹介も行った。

○現地研修では、電動草刈機、スイング式法面草刈機、ラジコン草刈機の実演をインストラクターが行い、希望者は実際に使用し、安全な作業方法について指導を受けた。

○ラジコン草刈機やスイング式草刈機を初めて見た参加者が多く、「ラジコン草刈機は静かで、力も強く興味がわいた」「短時間できれいに刈れている」と高評価だった。

○当室は、農業者への農作業事故防止や首・肩・腰への負担を軽減するため、引き続き情報提供や啓発活動に取り組む。

■「第１回ニューファーマー講座」の開催

○地域農業育成室は７月 13 日、認定新規就農者を中心とする新規就農者を対象に、地域の担い手としての資質向上や早期経営安定を図るため、「第１回ニューファーマー講座　かんきつ摘果講習会」を開催し、13 名が参加。

甘平の摘果方法の指導を受ける新規就農者

○本講座は２部構成で、かんきつ類における近年の気象の影響や安定生産・高品質化に向けた栽培技術について座学形式の講義の後、農業指導士による現地研修として、温州みかんや甘平、愛媛果試第 28 号等の中晩柑類の摘果方法を学んだ。

○参加者からは、「植物生理学に基づいた栽培期間中の水管理や品種ごとの摘果方法等について理解することができた」「実際に自分の園地で実践してみたい」等の声が挙がった。

○令和２年度ニューファーマー講座は全５回開催予定で、近年課題となっている鳥獣害対策や農業機械の適切な利用方法など、農業者のニーズに即した講座を計画している。

○当室は、今後も新規就農者の支援策を講じ、就農者の確保育成に取り組む。

南予地方局地域農業育成　鬼北農業指導班

■順調なスタートダッシュに向け、就農相談を実施！

○鬼北農業指導班は７月７日、鬼北町と連携し、営農インターン推進事業の対象となっている研修生（40代、女性）に対して、研修の状況確認と着実な就農に向けた就農相談を実施した。

○研修生は、R３年４月から有機農業を目指した就農を計画しており、当班及び同町担当者が、①有機農業に取り組みやすい品目(野菜等)②導入する機械③事業及び資金等について相談対応を行った。

○就農予定地では鳥獣害や水の確保など乗り越えるべき課題もあり、当班では引き続き、農業次世代人材投資事業（経営開始型）等の補助事業の活用も検討しながら、着実な就農に向け支援を行う。

研修生との就農相談の様子

■キウイフルーツ花粉事業検討会を開催。関係者がタッグを組んで産地化へ

○鬼北農業指導班は、キウイフルーツの花粉栽培(雄樹)から精製・販売までを一括して行う花粉ビジネスについて、果樹研究センター等と連携し、栽培技術確立等の支援を行っている。

○７月 22 日、花粉の生産・流通・販売の検討・現地視察を行う「キウイフルーツ花粉事業検討会」を松野町役場で開催し、花粉販売会社((株)アグリス)、全農、松野町、県の関係者等 16 名が参加した。

○検討会では、今後の花粉事業のタイムスケジュール、花粉精製機等の導入、流通・販売等について詳細に話し合いが行われ、花粉事業に関する覚書を締結することになった。

○花粉事業は令和元年度から松野町の農家３名(18a)が栽培を始めており、令和５年度から花粉のサンプル提供、令和６年度からは本格出荷を予定。

○当班は、本格出荷に向け、今後も苗木の成園化指導を行い、全国でも初めてのキウイフルーツ花粉産地づくりを展開する。

流通・販売についての検討会

現地ハウスでの栽培状況確認

■きゅうり産地再興・遊休ハウス再利用の促進。新規栽培者のために解体作業を実施

○鬼北農業指導班は今年度から、きゅうり産地の再興を目指した普及ビジョン「鬼北地域におけるきゅうり産地の再興支援」を設定し、新規栽培者の確保や技術指導、新たな栽培にスムーズに移行するための空きハウスの利用促進等の取り組みを進めている。

○この度、当班に、鬼北町内に所有者の体調不良から未使用となったハウス（間口 7.2m、長さ 40m（面積 288 ㎡））があるとの情報があり確認したところ、きゅうり栽培に適したサイズで程度も良かったことから、７月 29 日、関係機関等と連携して、空きハウスの解体・運搬作業を実施した。

○この解体したハウス資材は、現在、露地きゅうりを栽培している農業者（30 歳）の施設栽培による新たな作型への取組みに活用され、安定した収入の確保に繋げる。

○当班は、引き続き、当農業者へのハウスの建設指導や技術指導を行うとともに、新規栽培者の確保及び空きハウスの紹介や利用促進のサポート等を行い、きゅうり産地の再興を図る。

空きハウス解体作業中

解体作業に当たったメンバー

南予地方局地域農業育成室　愛南農業指導班

■コロナに負けるな！ふるさと小包７月便で「ふるさとの味」をお届け

商品を梱包するグループ員

○愛南農業指導班が特産品開発等を支援してきた女性農業者で組織する「南宇和ふるさと小包グループ」が７月 10 日、「ふるさと小包７月便」の梱包・出荷作業を行った。

○同グループでは地域特産物を活用した加工品を開発し、「南宇和ふるさと小包便」として、年に数回、全国の小包便愛好者に届けている。

○今年度は前年度より価格を下げ、年に４回発送する予定で、７月便には愛南町の特産物である河内晩柑の生果やジュース・ゼリーの他、きゃらぶきの佃煮、らっきょう漬け、加工酢などを梱包・発送した。今回の注文数はコロナ禍の影響もあってか、目標数の 100 個を大幅に上回る 230 個となった。

○購入者にはリピーターも多く、お中元やお歳暮向けにも好評で、今後も当班では特産品開発研修会等を通じて新たな特産品の開発を支援し、内容の拡充を図っていく。

■農業法人設立に向けて

専門家からアドバイスを受ける農家

○愛南農業指導班は７月 17 日、県愛南庁舎において、かんきつ経営の規模拡大に伴い法人化を検討している農業者に対し、相談会を開催した。

○当日は、えひめ農林漁業振興機構の協力を得て、専門家（司法書士、社会保険労務士）を招き、法人化設立に必要な手続等についてアドバイスを受け、９月から設立に向けた準備作業を進めることとなった。

○当班は、今後も関係機関と連携し、当農家に対して法人化が円滑に進むよう経営支援を行う。

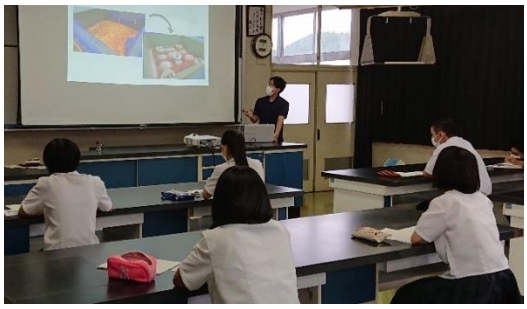
南予地方局　産地戦略推進室

■北宇和高校生を対象にうめ加工研修会を開催

○産地戦略推進室は７月 14 日、松野町の特産品「うめ」の魅力を広め、産地の再興につなげるため、北宇和高校の生徒を対象にうめ加工研修会を開催した。

○当日は、当室の担当者がうめの生産流通状況について講義をした後、松野町在住の料理愛好家の指導の下、うめジャムづくりに挑戦。

○今後、北宇和高校ではうめジャムの試作を進めたうえで、来年度中の商品化を目指しており、当室としても松野を代表する魅力的な商品となるようサポートしていくこととしている。



担当者による「うめ」に関する講義

うめジャムづくりに挑戦

■オンライン交流会で製菓専門学校生に「松野町のうめ」をＰＲ

○製菓を学ぶ専門学校生と農業者をオンラインで繋ぎ、生徒らが農業や農産物の魅力を学ぶ交流会が７月 16 日と 21 日に開催された。

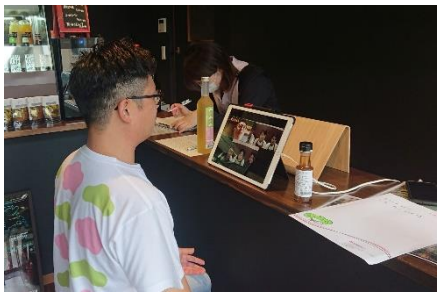
○この交流会は「えひめスイーツプロジェクト」（えひめ愛フード推進機構等の主催）の一環で、愛媛調理製菓専門学校（16 日）や河原パティシエ・医療・観光専門学校（21 日）と松野町などとをＷＥＢ会議アプリで結び、新型コロナウイルス感染症を踏まえた新たな交流方法を試行するかたちで実施。

○産地戦略推進室では、松野町の特産品である「うめ」の魅力を広める活動として、農業者とパティシエの二足のわらじを履く新改和也氏を講師として推挙し、交流会をサポート。

○新改氏は「うめ農家が儲けるためには、梅干用の正品だけでなく、格外品を用いてシロップやスイーツなどを作り、うめの魅力を伝えていく必要がある。」とコメント。

○生徒からは「うめシロップは初めて知った。お菓子づくりに使ってみたい。」といった感想も寄せられ、「松野のうめ」の魅力が将来のパティシエ達にしっかりと伝わる機会となった。

○当室では、今後ともうめのＰＲや加工品開発などをサポートし、うめ産地の再興に向けた取組をすすめていくこととしている。



タブレットを通してうめシロップ、タバスコを紹介する新改氏

■夏果実（松野産のもも）の庁内販売フェアを開催

○産地戦略推進室は７月 22 日、南予地方局ロビーで職員を対象とした「松野産もも」の庁内販売フェアを開催。

○この取組は、南予の代表的な夏果実（もも、なし、ぶどう）が、新型コロナウイルス感染症の影響により販売低迷が懸念されているのを受け、農業者の収入減少を少しでも食い止めるため、南予地方局と八幡浜支局の職員が購入支援するもの。

○今回はフェアの第１弾として、松野町の直売所「かごもり市場」関係者が来庁して約 30kg のももを販売。15 分ほどで完売し、予想を超える盛況ぶりであった。

○次回以降は八幡浜支局が中心となって、第２弾の「大洲産なし」、第３弾の「内子産ぶどう」を販売する予定で、職員が買い支えるだけでなく、ＳＮＳなどを活用し広く県民に情報発信し、南予地域の直売所等への誘客につなげ管内農産物の販売促進をすすめる。

陳列した松野産もも

庁内販売フェアの様子

■河内晩柑を使った新商品、シュークリームづくりに向けて

○産地戦略推進室では、えひめ愛フード推進機構及び愛南町農業支援センターと連携し、愛南町内のスイーツ店に対し、「えひめシュークリームキャンペーン 2020」の参加を呼び掛けている。

○７月 28 日には町内のスイーツ店４店舗を訪問し、河内晩柑のペーストシロップや果皮のシロップ漬けのサンプルを提供し、シュークリームへの活用を働きかけた。

○店舗からは「地元の河内晩柑を使ったシュークリームを作り、愛南町を盛り上げていきたい。」といった声もあり、当室としても関係機関と連携し、新たな河内晩柑の商品づくりをサポートしていくこととしている。

河内晩柑加工素材のサンプル説明と提供

南予地方局八幡浜支局　地域農業育成室

■温州みかんの夏期高品質対策を推進

○地域農業育成室は７月３日、日本一の温州みかん産地のブランド力と安定的な生産量の維持に向けて、八協柑橘共同選果部会生産者 120 名を対象に「温州みかんの夏期高品質対策、マルドリ栽培について」と題して、JA にしうわ本所で講演会を開催した。

○講演会では、日本一の温州みかん産地の生き残りをかけて、味づくりをテーマとし、マルチ及びマルドリ栽培、南柑 20 号の浮皮対策、フィガロンを活用した熟期促進対策など、現地実証結果を説明し、技術の周知・推進を図った。

○生産者の品質に対する意識は高く、梅雨明け後のマルチ被覆に向けて、適正結実や園地整備に取り組み、高品質果実生産を目指す。

温州みかん夏季栽培講演会

■新規就農者に向けメディアを活用したかんきつ栽培講座の番組制作

○地域農業育成室は新型コロナウイルスの影響から、今年は就農３年までの新規就農者を対象としたかんきつ栽培講習会「シトラス講座」を、メディア（CATV、YouTube、HP）を活用して発信している。

○７月（第２回）の番組は、高品質果実を生産する栽培技術である「マルチ栽培について」として、事前の開閉マルチの作成方法（７月 13 日撮影）、現地でのマルチ被覆（７月 30 日撮影）を収録し、かんきつ栽培の知識が少ない人でも理解できるよう、作業のポイントなどを分かりやすく解説した。

○８月上旬に八西ＣＡＴＶで放送予定であり、再放送を含め全 21 回放送される。また、第１回の講座（粗摘果）を含め、八西ＣＡＴＶや支局のＨＰ、県庁公式 YouTube で番組の視聴が可能。

○次回は、仕上げ摘果について８月下旬に収録し、９月上旬に放送する予定。

開閉マルチの準備

現地でのマルチ被覆作業

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室　大洲農業指導班

■経営技術のスキルアップと早期安定を目指して

○大洲農業指導班は７月 29 日、就農５年以内（就農予定者を含む）の新規農業者を対象とした今年度１回目の農業基礎研修会を開催。

○本研修は就農間もない農業者の経営早期安定化と定着を目的としており、今回は「農業制度資金の活用」と「鳥獣害対策」について、それぞれ㈱日本政策金融公庫、県庁農産園芸課より講師を招き実施した。

○両テーマともに参加者の関心は高く、特に鳥獣害対策については、「現在箱わなを設置しているが、どういった餌が捕獲には効果的か」「イノシシは嗅覚が優れているが、視覚についてはどうか」などの質問が挙げられた。

○長雨による作業の遅れや新型コロナウイルスによる販売への影響等、不安が多い状況ではあるが、夫婦で研修会に参加するなど、農業経営のスキルアップへの意欲の高さがうかがえた。

○今年度の研修会は４回計画しており、次回（９月）は現地での栽培研修を予定している。

農業基礎研修会

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室　西予農業指導班

■西予市管内で農福連携の実践が波及

○西予農業指導班は、担い手農家の労働力を補完するため農福連携を推進しており、これまでに、いちごの「出荷箱折り」「残渣処理」「資材片付け」等の作業マッチングを行ってきた。

○今回、JA ひがしうわ・いちご部会員等へ農福連携による作業委託の意向を聞いたところ、4戸のいちご農家から要望があり、市内の就労継続支援施設（2施設）とマッチングを図り、契約に至った。

○７月６日を皮切りに、農家と就労継続支援施設が直接連絡を取り合い、天候と作業状況を見ながら５～10 日間程度、３～５人/日の施設利用者と支援員が各農家のハウスに出向き、いちご苗の残渣処理やポットへの土入れ作業などを行った。

○作業委託した農家からは、「天気の心配もあったが、施設との連絡調整もうまくでき、思ったより作業が進み助かった。今後も活用していきたい。」との声が聞けた。

○いちご農家以外からも作業委託の要望が出ていることから、当班では継続してマッチングを支援し、農福連携の拡大を目指す。

いちご残渣処理作業を行う施設利用者

■土壌消毒剤の新たな活用法を検討

○西予農業指導班は７月 10 日、ハウスきゅうり生産部会 20 名を対象に、土壌消毒剤「キルパー」の新規活用方法「古株枯死、病害虫蔓延防止」について、資材メーカー担当者を招き研修会を開催。

○管内では、大幅な減収を招く難防除病害「きゅうり黄化えそ病」対策が重要課題となっており、ウイルスを媒介するミナミキイロアザミウマに対して、ハウスと露地ほ場間における伝染サイクルを遮断することを目的に、前作の古株を枯死させる新技術の導入普及を図っている。

○同剤は比較的安全かつ容易に処理が可能であり、栽培終了後、古株に灌水処理すると数日で枯死するため、残渣処理にかかる労力軽減が期待できる。また、有効成分のガス化により株表面やハウス内の病原菌、土壌中の病害虫を死滅させることができる。

○本研修会を通して、生産者は効果的な処理方法を習得することができたため、ハウス栽培終了後に同剤を活用することとなった。

○今後、JA およびメーカーと連携して技術的なフォローを行い、高品質安定生産による生産者の所得向上を支援する。

「キルパー」の使い方を研修

■リアルタイム栄養診断によるトマト産地の底上げを目指す！

リアルタイム栄養診断について研修

○西予農業指導班は７月 10 日、城川地域の大玉トマト生産部会 25 名を対象に現地研修会を開催し、リアルタイム栄養診断等に基づいた適切な施肥管理技術について講習を行った。

○これまでの研修会等を通じ、トマト樹体における硝酸態窒素濃度の測定により、樹体が必要とする時期に適量追肥を行う技術の普及を進めてきた結果、「硝酸イオンメーター」の機材を生産部会で整備することとなった。

○これにより、ほ場への過剰な窒素施用を避ける等の環境保全型栽培技術の普及を図るとともに、安定した生育による品質・収量向上を図り産地の底上げを目指す。

○収穫は 10 月下旬まで続くため、他の栄養素（カリウムやカルシウム）についても併せて診断できるようデータを収集し、生育診断の指標づくりを進め産地の活性化を支援する。

■新規就農者がかんきつの摘果技術を学ぶ

○西予農業指導班は７月９日と 13 日、農業次世代人材投資資金受給者（三瓶町 19 名、明浜町９名）を対象にかんきつの摘果講習会を開催。

○昨年度のサポートチームによる巡回で、摘果不足が原因で小玉果が多かったとの反省を踏まえ、西予市と連携してかんきつ栽培の基本技術を学ぶ研修を企画。

○室内で摘果技術の基礎を研修した後、現地では南柑 20 号・甘平・清見・不知火の樹で摘果を実演した。また、参加者はそれぞれの品種に応じた摘果技術を学び、意見交換を通して理解を深めた。

○当班では、新規就農者の意向を踏まえ、栽培技術や経営能力の向上を目的に研修会を開催し、早期の経営安定を支援することとしており、９月はスマート農業・農作業安全講習会の実施を予定している。

品種に応じた摘果技術を講習

■大野ヶ原産ニンニクの安定生産・高付加価値販売を目指す

○西予農業指導班は、西予市野村町大野ヶ原で青森県が主産地の寒地系ニンニク「ホワイト六片種」の産地化を支援している。

○「大野ヶ原にんにく組合」（代表：吉井智昭）は、共同整備したニンニク加工所において、試験栽培した 14 戸の生産者が６月中に収穫したニンニクの乾燥調製を完了した。

○乾燥後のニンニク１玉の平均重量は 30～40g 程度で、青森県産に遜色ない出来となった。

○当班は、７月からニンニクの品質・収量調査や付加価値の高い黒ニンニク等の加工方法等の検討支援を行っており、今後、組合と加工・販売を共同で取組む県内企業と連携して、高品質栽培マニュアル作成など生産基盤の確立と合わせて、大野ヶ原だいこんに続く新たな特産品づくりを目指す。

乾燥調製中のニンニク

南予地方局八幡浜支局　産地戦略推進室

■半樹別交互結実で川田温州の連年安定生産

○産地戦略推進室は７月１日、川田温州の連年安定生産に向けて、生産者 13 名を対象に真穴地区の現地ほ場で着果管理（摘果）研修会を開催するとともに、管内８園地の互評を行った。

○川田温州は隔年結果性が極めて大きいことから半樹別交互結実を推進しており、研修会では半樹別摘果の手法、実施時期、留意点等について説明し普及を図った。

○また、互評した各園地では、先進農家から未結果部と着果部が明確となるようテープで印をしておく工夫や、通常の摘果に比べ省力化が図れるなどのアドバイスを頂きながら意見を交わし、生産者相互で技術の取得と向上に努めた。

○川田温州における隔年交互結実技術の有利性は年々生産者に浸透してきており、本年産は約1.7ha で実施される見込みで、同室では今後、個別指導による結実管理のフォローを行い技術の定着を目指す。

半樹別摘果のポイントについて指導

川田温州の半樹別交互結実（粗摘果後）

■加工用青ネギ栽培の省力化に向けて収穫機の導入を検討

○産地戦略推進室は７月 30 日、西予市で加工用青ネギの生産に取り組む（株）百姓百品村の栽培管理者３名とともに、香川県農業試験場に収穫機及び栽培技術に関する視察研修を行った。

○これは、手作業による加工用青ネギの収穫に関し、当室が収穫機の導入による省力化の必要性を提起し実現したもの。

○香川県はうどん用の葉ネギの産地で、同試験場ではメーカーとともに省力化安定生産システムに関する収穫機の実証試験に取り組んでおり、当日は、試作機の実演を通じて、処理スピードや精度、操作性、価格等について意見を交わした。

開発中の収穫機の実用性について研修

○現在、改良を重ねている段階であるが、加工用青ネギの面積拡大においては専用の収穫機は必要不可欠であることから、本産地においても今後の研究成果を注視しつつ、機械についての情報を収集し導入を検討することとした。

農産園芸課　高度普及推進グループ

■普及組織先導型革新的技術導入事業の採択事業の決定について

○普及組織が産地の競争力強化等のため、先進的な経営体等と革新的な技術の導入、確立に取り組む「普及組織先導型革新的技術導入事業」に募集があった事業について、県が審査を行い、３事業が採択された。

○採択された事業のうち、令和４年度から苗配布が行われる新品種「紅プリンセス」を水田転換園で栽培する事業では、地下水位の高い条件不利地でも高品質多収栽培が可能となる新しい根域制限栽培技術が導入される。

○また、免疫を高めるとされ需要拡大が見込まれているショウガの栽培と一次加工に取り組む事業では、生産加工において最大のネックになっている根茎の貯蔵技術について、庫内温を誤差２℃以内に均一に保てる専用の貯蔵施設を県外メーカー等と設計、設置する。

○更に、ゆず栽培の省力化に取り組む事業では、海外のりんご栽培等で導入されているバキューム式果実搬送システムを県内メーカー等と開発・実装し、その効果を検証する。

○高度普及推進グループでは、各普及拠点等と連携し、事業に取り組む生産法人と革新的な技術をいち早く導入、確立することにより、産地競争力の強化を図ることとしている。

採択された事業の概要

■「甘平」の裂果要因の解明に向け県下優良園地の生産実態を調査

○高度普及推進グループは、裂果の発生が問題となっている「甘平」について、裂果の要因を解明するために設置した裂果率が極端に低いとされる調査園地（県下 16 か所）で、各普及拠点と連携し、園地の立地条件及び栽培管理等を確認する現地調査を実施した。

○調査園地では、全般に着果量は多く、落ち着いた樹相から柔らかい春枝が発生し、樹体と果実生育のバランスが良い樹が多い。また、土壌は、粘土混じりで土壌水分の急激な変化が少ないと考えられる土壌である場合が多く、栽培管理の徹底等から細根群が表層付近で発達していること等を確認した。

○当グループでは、より多くの園地事例から裂果の要因を解明し、効果的な裂果対策を推進するため、引き続き各普及拠点（普及指導員果樹調査研究会）と連携して、調査園地の生産実態等を調査することとしている。

裂果が少ない園の樹相

裂果が少ない園の細根群の状況

■ひめの凜「出穂管理（穂肥・防除）マニュアル」の策定について

○高度普及推進グループは、県オリジナル育成品種「ひめの凜」の栽培管理を徹底するため、「出穂管理（穂肥・防除）マニュアル」を策定した。

○当マニュアルは６月に公開した「中間管理（中干し・防除）マニュアル」に次ぐもので、各普及拠点と調査した県下の生育状況を基に、本年度の中干し後の水管理と適期・適量の穂肥施用等について解説している。また、本年度多発している、いもち病やトビイロウンカ等の発生条件や効果的な防除時期等についても写真や図で分かりやすく記載した。

○全32ページの当マニュアルは県ホームページで公開済み。さらに、７月29日から地方局ごとに開催している講習会でも、生産者やＪＡ営農指導員等に対し、配布・説明するなど、栽培管理の周知・徹底を図っている。

出穂期管理（穂肥・防除）マニュアル

地方局での現地栽培講習会

■「ひめの凜」高品質生産に向けた作物調査研究会を開催

○高度普及推進グループは、「ひめの凜」の高品質・安定生産に向け、７月 17 日、県下の普及指導員及び JA 営農指導員を対象とした第２回作物調査研究会を開催した。

○研究会では、当グループがひめの凜の生育状況や、栽培のポイントである中干しの実施状況を４Ｋ動画等で報告するとともに、今年度より各普及拠点と実施する「ひめの凜」の品質と収量の因果関係を把握するための実証試験の内容等について説明、協議した。

○また、当グループでは西予農業指導班と連携しながら、昨年度食味の全国コンクールで最高位を受賞した西予市の生産者グループの協力を得て、受賞したほ場の田植期以降の生産実態調査を開始。得られた情報から高品質米を生産するための立地条件及び施肥管理等について検討することとしており、これらの活動を通して「ひめの凜」の生産振興を図る。

調査研究会における４Ｋ動画による現状報告

昨年の全国食味コンクールで金賞を受賞したほ場

■高級菓子店向け加工用もも早期成園化実証ほの生育調査と栽培指導を実施

○高度普及推進グループは7月20日、鬼北農業指導班と連携し、排水対策を実施した高級菓子店向け加工用もも園の早期成園化実証ほの生育調査と早期樹冠拡大に向けた枝梢管理の指導を実施した。

○早期成園化実証ほでは、一昨年に植え付けた３年生樹の生育が順調で、排水対策を未実施の７年生樹に比べて、十分な根群域と細根量が確保されており、新梢伸長量や枝・葉数が多く、約2.5倍の樹容積があることを確認した。また、主枝背面から出た強い新梢の摘芯や主枝・亜主枝先端の誘引方法など、早期樹冠拡大と収量確保を図るための樹形づくりについて指導した。

○当グループは、引き続き、当実証ほの早期成園化を支援することで、排水不良地における定植前の土壌改良の重要性を示すとともに、鬼北農業指導班など関係機関と連携して、当実証ほをモデルとした排水対策実施園の拡大を推進することにより、加工用ももの安定生産体制の確立を目指す。

排水対策実施樹（３年生樹、左）と未実施樹（７年生樹、右）

■県育成品種「紅い雫」高糖度果実生産及び高収量栽培技術の確立に向けた試験ほを設置

○高度普及推進グループは７月 29 日までに、県育成品種「紅い雫」高糖度果実生産技術及び反当７ｔ以上の高収量栽培に向けた新規格の高設栽培システムの試験ほを設置した。

○本試験は、低温管理による高糖度果実の生産・販売に取り組む生産者グループと、高収益栽培を目指す全農えひめ、周桑農協等と取組むもの。

○東温市及び西条市で設置した試験ほでは、普及員がＪＡの営農指導員等と既存の栽培システムを改造し、透水性、通気性に優れた培地を使用した大容量高設ベッドを設置した。特に、低温栽培用の試験ほでは、培地を加温、冷却するチラー等が装備されており、根部の好適な環境や根量の増加により、より多くの同化産物の蓄積が可能になること等から、冬期の低温管理においても高品質な果実が生産できるシステムとなっている。

○当グループでは、新たな栽培システム等の技術を確立、波及させることにより、県内の生産者「紅い雫」ブランドイメージの構築と県下いちご産地の競争力強化等を目指す。

低温栽培用栽培ベッド（東温市）

高収量用栽培ベッド（西条市）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543